

様式第二号の十三（第八条の十七の二関係）

（第1面）

特別管理産業廃棄物処理計画書	
令和4年6月30日	
愛知県知事 殿	
提出者	
住所 愛知県春日井市高蔵寺町北 2丁目 52番地	
氏名 医療法人徳洲会 名古屋徳洲会総合病院	
理事長 安富祖 久明	
電話番号 0568-51-8711	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	医療法人徳洲会 名古屋徳洲会総合病院
事業場の所在地	愛知県春日井市高蔵寺町北 2丁目 52番地
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月1日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
1 事業の種類	医療業
2 事業の規模	350床
3 従業員数	850
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	感染性廃棄物：中間処理業者に全量委託して焼却後、埋立処分。

（日本工業規格 A列4番）

（第2面）

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

院長（特別管理産業廃棄物管理責任者）

｜

事務長（産業廃棄物管理責任者）

｜

総務課（廃棄物管理担当）

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

1 現状

【前年度（令和3年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	燃えやすい廃油
排出量	200.94 t	0.21 t

（これまでに実施した取組）

排出種類が感染性廃棄物であるため、患者数に依存することから
排出抑制が困難である。

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	燃えやすい廃油
排出量	190.00 t	0.20 t

（今後実施する予定の取組）

手術ガウンは全て使い捨ての不織布ガウンであるが、一部を布製
の洗濯して再使用できるガウンに変更し、廃棄物の削減を図る。

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	<p>(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染性廃棄物 <p>鋭利なもの、液状・泥状のものはセイフティボックス（プラスチック容器）に、固形状のものは段ボール箱に分別している。</p>
2 計画	<p>(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
1 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	燃えやすい廃油
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	<p>(これまでに実施した取組)</p> <p>廃棄物の性質上、実施していない。</p>		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	燃えやすい廃油
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>特になし。</p>		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
1 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	燃えやすい廃油
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t

	(これまでに実施した取組)		
	実施していない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	燃えやすい廃油
	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
	実施する予定はない。		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
1 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	燃えやすい廃油
	自ら埋立処分を行 った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
		実施していない。	
2 計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	燃えやすい廃油
	自ら埋立処分を行 う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
		実施する予定はない。	
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			

1 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	燃えやすい廃油
	全処理委託量	200.94 t	0.21 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t
	<p>(これまでに実施した取組)</p> <p>委託先処理業者の処分状況を現地にて確認し、その様態を明確にし ている。</p>		

(第5面)

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	燃えやすい廃油
	全処理委託量	190.00 t	0.20 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t

		<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>委託先処理業者には定期的に実地確認を実施する。</p>
<p>電子情報処理組織の 使用に関する事項</p>	<p>【前年度（令和3年度）実績】</p>	
	<p>特別管理産業廃棄物 排出量 (ポリ塩化ビフェニル 廃棄物を除く。)</p>	<p>201.15 t</p>
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>特になし。</p>	
<p>※事務処理欄</p>		

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が 50 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第 6 条の 14 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第 2 条の 4 第 5 号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が 50 トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第 8 条の 31 の 4 に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。

9 ※欄は記入しないこと。